

三河一向一揆 和睦の太子像 徳川家・松平家ゆかりの寺

じょうしゅいん 浄珠院



山号・院号	清光山 大海寺 浄珠院
宗 派	浄土宗 西山深草派
本 尊	阿弥陀如来（立像）
開 基	教然良頓
住 職	平井 隆盛（三十世）
住 所	岡崎市上和田町北屋敷 55
URL	https://www.zyousyuin.org



平井隆盛住職



浄珠院本堂で、住職の平井隆盛さんからお話を伺いました。

●大海寺の由来

この浄珠院は清光山大海寺浄珠院という名前で、大海寺という名前が入っていますが、浄珠院となる前は大海寺という天台宗の寺でした。最初にここに寺ができたのは、天台宗を開かれた最澄の愛弟子・慈覚大師円仁（えんにん）が聖徳太子の御像を背負ってここに来られ、大海寺という寺を建てたといわれています。

なぜ大海寺という名前かという、隣の宮地町に犬頭神社がありますが、昔は今の位置ではなく上和田町字森崎あたりにあったといわれています。犬頭神社には上に糟目という字がつきます。糟目渡しといって矢作川の向こうへ渡しがあったといわれています。上和田という名前ですけど、昔は輪田（わだ）と書いて、「（わだつみ）海」という意味です。ですから碧海郡も海という字を書きますし、六ツ美は矢作川が蛇行してずっと沼地で、真ん中に中島がある六つの海、そういう地形でした。それでここに渡し場があり、上和田は交通の要衝でした。

渡しの守り神が犬頭神社で、鎮魂の寺として大海寺があったのだと思います。

●浄珠院の由来

昔、この地に松平がいて、今川と共に、織田が攻めてくるのを守っていました。織田方が、周りを堀と川に守られている岡崎城を攻めるのには、まず安城を落として、矢作川を渡りて渡って小豆坂へ行き、明大寺を下って岡崎城を攻めるしかなかったのです。交通の要衝になる渡しの場所ですから、攻めるのも守るのもここを取るのが大切で、ここに松平の關係の砦を作ろうとしたのが松平の二代・泰親の長男・教然です。泰親は松平の初代・親氏の弟ですが、なぜ長男を坊主にしたかというと、親氏の子・信光が三代目になりますが、信光と自分の子供がけんかをしてもらっては困るので、信光を養子に迎えて長男は出家させ、自分たちの菩提を弔ってもらおうとしたのです。

今は正名の永應寺、昔あそこに變相寺という寺があり、浄土宗西山深草派という宗派の三河最初の拠点になった寺です。そこで教然が修行して、その後法蔵寺や京都の圓福寺で修行した後こちらに帰ってきて、ここにあった大海寺が無住の荒れ寺の状況を見て、この寺を砦にしたいと考えました。当時の足利幕府に願い出て、後花園天皇を紹介されて、教然が後花園天皇に勧進し、砂金と齋田をもらって、ここに浄珠院という寺を建てたといわれています。砦となる寺を建てたのです。ですから松平は争いの中で、ここに本陣を何回か構えて争いをしてきたという歴史があります。

またこの寺を拠点として教然の弟子たちが三河の地域にどんどんと進行していくのにあわせて浄土宗西山深

草派の寺を建てていって、勢力を広げていきました。

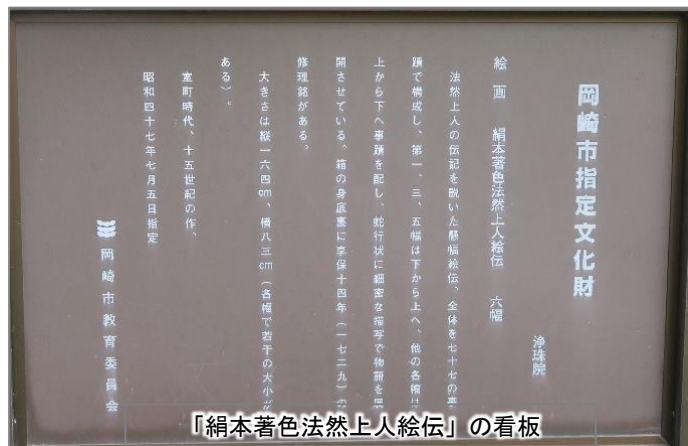
●三河一向一揆と太子堂

家康が人質から帰ってきた後、一向一揆が始まり、ここに拠点を構えて一向衆との争いをしました。その時に、この道路の南側に大久保一党の屋敷群がこの寺を守るような形でありました。一向一揆の時は家康がここに本陣を構えて、この周りに陣屋を張り巡らして一向衆と争いました。

一向衆の方から和睦を申し入れてきた時、それを大久保忠俊（浄玄）が仲介をして家康に話をすると、それならば滅ぼしてしまえと馬に乗って出かけようというところを、忠俊と4代目住職・利空が一緒になって馬の轡をとり、「大義をお持ちの御身、無益な殺生はおやめください」と言ってお諫めし、無血で和睦を結んだと言われています。

当時、和睦をする時は神文誓書をお互いに交わします。隣の太子堂に聖徳太子の御像がありますが、その像に誓いを立てたといわれています。その御像は円仁さんが担いできたもので聖徳太子の直作だと言われて伝わっています。今の太子堂は三間半四方ですが、大海寺の当時は七間四面のお堂があったといわれ、今の4倍ぐらいの大きさです。本堂も今は9間四方ですが、当時は13間四方だったといわれています。今のこの寺とは考えられないくらいに大きな構えをした寺でした。

和睦後、一向宗は信仰禁止になり、一定の寺は壊されて坊主は所払いになりました。また一向宗の寺にいろんな宝物がありましたが各寺に下げ与えられて、私どもにも浄土宗を開かれた法然上人の生涯を描いた「法然上人絵伝」があります。どこかの浄土真宗の寺にあったものを、一向宗の人たちがここで信仰の対象にしてもらうために私どもに下げ与えられたといわれています。三河の一向一揆は誰も断罪にすることなく無血で終わりました。



『絹本着色法然上人絵伝』の看板



●梵鐘について

今の梵鐘は新しくなっていますが戦前には古い梵鐘があり、昔、敵が攻めてきたことを知らせる戦ぶれのために今川が持ってきたもので、遠江豊田郡野那郷の日吉山王寺神宮寺という寺から来ていると書いてあったといわれています。

それが先の戦争の時に偽物だといわれて、先々代住職が供出してしまいましたが、戦前の岡崎市史をやっていた方などは、拓本をとるために擦るとウォーンウォーンと鳴くような素晴らしい梵鐘だったと言っておられたそうです。

●聖徳太子の御像



家康が江戸に移った後、秀吉の家臣・田中吉政が岡崎城主になり、松平の勢力をそぐために岡崎の神社仏閣の寺領を召上げたりされたようです。他の寺はそんなことはなかったが、この寺だけは全部壊され、材木はみんな持っていかれて矢作川の堤防を作ったりするために使われ、聖徳太子の御像やご本尊も全部燃やされました。しかし、仏像などは燃やすのは誰でも怖いもので、聖徳太子の御像を足から燃やし、頭の方は燃え残り、江戸時代になり修復されました。お顔は間違いなく一向一揆の時に和睦を結んだ時のままですが、胸から下は修復され色が違ってしています。また、袖のところに胎内仏として小さな如意輪観音が入っていましたが、修復の時に出され、今はこちらの如意輪観音像の中に納めてあります。江戸時代には家康が一向一揆に勝利してその後天下を治めたということで、聖徳太子を祀られたお堂が開運殿という名前を付けて信仰されたそうです。





といわれています。

この太子堂は伊勢湾台風で屋根を飛ばされましたが、お金も無かったので、用材をそのまま使い、柱もその当時のものを継いで修復してあります。

●江戸時代

その後、慶長6年（1601）伊奈備前守が巡視に来られた時に、由緒ある寺であるということで寺領十五石を貰って、寺を何とか細々と維持していました。

また、家康が天下を取った時、三河の寺院が何とか助けてもらおうと伏見城にお願いに行き、家康も各寺院に寄進をするなどいろいろされましたが、浄珠院は世話になった寺なのになぜ願い出てこないのかと、うちの宗派の坊主に話をしました。当時住職はおらず、監主の僧が管理していましたので、監主が慌てて跳んで行き、家康から加増をお願い出ると言われましたが、欲の無い人で結構ですと断られましたが、一応五石増の二十石で朱印を賜ったとなっています。

その後、第五代岡崎藩主・水野監物がこの寺の由緒を聞いて、それは大変だということで材木を寄進していただき、今お墓がある場所に本堂を建てて、江戸時代はこの寺を維持してきました。寺の周りに寺領をもって、少しは生活できる状況にあったので、お坊さんの養成学校のようなものを作り、お坊さんを養成し、うちの末寺に住職として派遣していくという形で江戸時代は続いてきました。

また、将軍が亡くなると、必ず芝の増上寺で葬儀・お勤めがありますが、この寺は由緒から本山級の扱いを受けて、普通の坊さんたちは焼香するだけです。座具を用いてお参りをするような扱いを受けていたといわれています。そういった記録も江戸時代の物は残っています。このような形で江戸時代は経過しました。

●明治以降、本堂再建

幕末、蛤御門の変で京都のうちの宗派の寺がみんな燃やされ、明治になりそれらの寺を再建しようとした時、明治政府が新京極に遊樂街みたいなものを作るため、そこにあった誓願寺や圓福寺などの土地を召上げました。そこで誓願寺や圓福寺を別の場所に再建しようとしたのですが、圓福寺は京都での再建をあきらめて、岩津に持ってきました。そのために岩津にあった妙心寺と圓福寺が寺替えをし、その宝物を全部入れ替えました。そして当時圓福寺でやっていた行事をここ浄珠院でやろうということになり、妙心寺の末寺と浄珠院の末寺が一緒になってこの寺を再建しようと、寄進を集めてこの本堂を作ったといわれています。ですからこの本堂は明治元年から10年ぐらいにかけて建てたといわれています。廃仏毀釈の真っただ中ですが、新京極の話もあって明治政府は許したのだと思います。



このお堂は九間四方の本堂ですが、今も未完成です。その当時の棟梁が建築の途中で亡くなってしまい、当時設計図は棟梁の頭の中だけにあり、次ができなくなってしまいました。また本堂の裏に今は閉じた扉があり、もう一つお堂を建てるつもりでいたようですが、それも建てることなく現在に至っています。

大正時代にはこの隣にお坊さんが修行するために庫裡がありました。それもその当時建てたといわれています。寺領も三十町歩あったそうで、妙心寺の檀信徒も合わせて寄進をしたということで、20石で三十町歩というのはあり得ないですけど、それほど寺領があったそうです。

また、この本堂ができた後にオモトという観葉植物の第2回品評会がここで開かれ、岡崎の駅からこちらにか

けて、皆さんが酒を振る舞うなど、接待をする出店などがそこら中に出て、ものすごく賑わったと聞いています。

しかし、その後寺領も無くなると共に、檀信徒も離れていきましたが、今は皆さんに**お墓**を買っていただいて少しずつ立て直している状況で復興はしてきています。

●位牌

家康が納めた祖父・清康と父・広忠の位牌があります。ただ元康という名前で収めてあるので、ちょっとその辺の時代がどうなのかわかりません。

また清康の弟・信孝のお墓と位牌、信孝の子の位牌があります。信孝は明大寺の耳取縄手で討ち死にしますが、その付近に葬られていたのを、広忠が世話になった叔父なので浄珠院に埋葬してくれということで、**信孝の墓**があります。

また江戸時代の歴代将軍の位牌がずっとあります。この寺は、浄土宗西山草深派の寺と江戸の増上寺のとの間の蝕頭(ふれがしら)でした。江戸時代、朱印の書き換えや、寺が行事をおこなったり、寺を建てるときは、寺社奉行の許可が必要で、全てこの寺に出して、この寺が増上寺まで行って、増上寺から寺社奉行に願い出るという形でした。そのための歴代将軍の位牌もあります。江戸時代は15代まで将軍がいますが、13代までの位牌があります。



●山門と菊の御紋

後花園天皇から勅願をうけたという話がありますが、それも残っているものが無く、唯一あるのが古い山門があります。その瓦に菊の御門が入っています。

間違いなく後花園天皇の勅願を受けて作った寺であるというのはこれだけです。



●銀杏の木

うちの寺で古いものとして、銀杏の木が5本あります。本堂側の大きな3本は水野監物の寄進で本堂を建てた時に記念で、山門側の2本が今の本堂を建てた時の記念の木です。岡崎市ふるさと名木に指定されています。



5本の銀杏の木 (↑)

●たらようの木

岡崎市ふるさとの名木になっている「たらよう」があります。あれが葉書(はがき)の木です。あの葉っぱに鉄筆などで書くと黒く浮き出してきて、経文とかいろんなものを書いたといわれています。

今は木に支えられて情けない格好で伸びていますが、今の根っこぐらいの太さで今の枝の高さよりももう少し高い木でした。中に穴が開いて水が入り腐ってきまして、樹木医さんに3回ほど直してもらい、今のようになっています。元々は信孝の墓があったあたりにあって、そこを整理したときに移し替えた木で、もし移し替えていなければ元気だったかもしれないです。



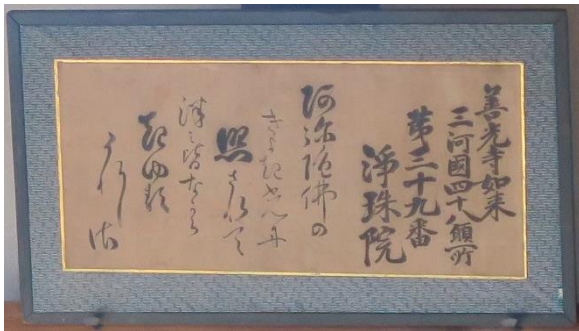
●教然の墓

幸田の西方寺は教然が隠居した寺ですが、教然の墓が見つかったと幸田町の方が言ってられました。

教然の墓は円福寺の片隅にもありますが、管理しているのはその下の真浄院という寺です。その周りには松平のお墓があり、信光やその奥さんの墓があります。

●善光寺戒壇巡り

ご本尊の裏が善光寺の戒壇巡りとなっています。



●質疑応答

Q. 将軍家の位牌があるということですが、大樹寺の位牌との関係は？

A. 大樹寺の位牌は菩提寺としての意味があったと思います。私どもの寺の歴代将軍の位牌は、朱印を将軍が変わるたびに書き換えを申し出ます。その際、歴代将軍をご供養していますと申し添えて許可を受けるためにお祀りしている位牌で、朱印を貰っていた寺には必ずあったはずです。特にここは触頭ですから、増上寺まで行って直接手続をする立場でしたので歴代の位牌がそろっているのだと思います。大樹寺とこの寺とは浄土宗でも宗派が違います。家康は松平でも本家の岩津松平ではなく、大樹寺は安城松平の旦那寺で、宗派が違います。同じ宗派なら大樹寺を通して諸々の申請を行うのですが、増上寺が管理する宗派になっていました。

Q. 浄土宗の寺へ行くと、古いものが焼失して残っていないということを聞くことが多いですが、浄土宗が敵対されたということがあるのですか？

A. それはないと思います。田中吉政の時に松平の勢力を弱体化させるために、他の寺は寺領を召し上げられただけで、寺を全部壊されたのはここだけです。大樹寺などは何の影響もなかったといわれています。庫裡なども全部残っています。

ここは交通の要衝で、万一の時に攻め上げられてここを落とされたら大変なことになり、そこをまた砦にされたら非常にまずかったのでしょう。今は矢作橋が交通の要衝ですが、あそこを落とされたら渡れないのです。となると、人とか物で攻めてくるとしたら、浅いからこしがありません。それがこの寺にとっては不幸でした。それがなければ違った形で古いものが残っていたかもしれません。

ここに観経曼荼羅の軸があり、絹ででき金泥で塗られた鎌倉時代の作と言われていますが、真ん中を破られ荷車で轢かれたような状況で直ちに直せない状況で、田中吉政の時は大変な状況で住職たちは逃げたのだと思います。

Q. 名前が大海寺から浄珠院となりましたが、寺で院というのはどういう意味がありますか？

A. 歴史の中でいろんなことが書かれていて、勝手に浄珠院と名乗ったと寺の縁起に出てきますが、私の考えでは後花園天皇から賜ったものだと思っています。その当時勝手に院は名のれず、寺格で衣の色なども決められており、全部天皇家に願い出ていましたので、院というのは何らかの形で天皇家から賜らないと、名乗れなかったと思います。

Q. 江戸時代にお坊さんの学校があったということですが、何処の地区でもあったのですか？

A. この寺は触頭で末寺二十何寺がありましたが、当時浄土宗は妻帯が許されず子供がいません。だから養成しなければなりませんでした。

本尊の両側にロッカーを4つ置いてありますが、お経やお経の解説書、学術書、逸話本など三千冊くらいの本が入っています。末寺から文庫費としてお金を集めて本を買い集めそこで勉強できるようにし坊主を養成していました。

Q. 家康が江戸へ移った時に、家来や商人は江戸へ行きましたが、寺も行くというのはなかったのですか？

A. 増上寺あたりは一部持っていきましたが、寺を持っていくといっても、向こうに受け皿もありませんでした。家康はその時は岡崎が居城ではなく静岡にあり、家康の古い部下たちもこのあたりの出身ですが、皆出て行っており岡崎にはいませんでした。今上和田に大久保は誰もいません。

Q. 古文書を見ていたら、このあたりが和田郷糟目村というのが出てきましたが、範囲がどのあたりかわかりますか？

A. 六ツ美村史に犬頭神社が「隣村上和田村の西糟目森崎に在り」とあるので、今の上和田町字森崎が糟目村の西部の一部と思われます。

Q. 一向一揆の資料は残っていますか？

A. 勝鬃寺さんなどには一向衆側の資料が残っていると聞きますが、こちら側にはありません。

歴史博物館がかなり調査されたので、一部あると思います。

一向一揆についてはいろいろなことが言われていますが、現実には家康の家来どうしの争い、下級武士と上級武士の争いの様な状況で、宗教戦争の様な形ではなかった。一向宗の僧が檄文を出したというのが一部聞いたことはありますが、本願寺から立ち上がれと出されているわけではなく、ワァーと盛り上がりワァーと終わった感じで、日本全国に広がるような一揆の雰囲気ではなかった。和平の時も一向宗の僧は出てこず、武士どうしで和睦しています。

Q. 胎内仏はどういった意味が込められていますか？

A. その像に込められた願いだと思っています。聖徳太子は如意輪観音の生まれ変わりといわれているので、太子像の中に如意輪観音を入れたのだと思います。

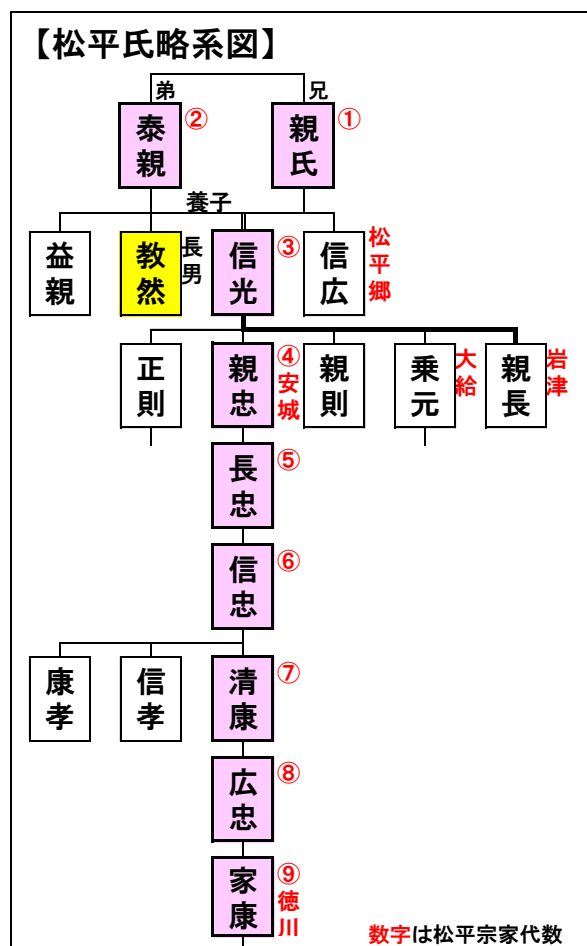
願いをかけるために、仏の中にいれるのはそういったことで、どうしてこの仏を作ったのかという部分があるのだと思います。普通は出してはいけないものです。戻しておくものです。

Q. 伊奈備前守から十五石もらったのはいつ頃のことか？

A. 田中吉政の後で慶長六年（1601）です。家康から五石加増されたのは慶長八年（1603）です。

Q. 松平の本家とはどういう形をいうのか？ 三代の信光は親氏の子であるので、その系統の家康は本家ではないか？

A. 岩津が本家筋で5代の長忠の時代に、岩津松平が途絶え安城松平に惣領家に移った。大樹寺は西山草深派とは全く違う宗派で、そこが菩提寺になっているというのが傍系であるという証でもあるといえます。



<以上>